

「ジャパンレッド」発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋— ㊤



日本遺産に認定された「『ジャパンレッド』発祥の地—弁柄と銅の町・備中吹屋—」のストーリーを構成する文化財を紹介します。

せきしゅうかわら
石州瓦製作道具 未指定有形民俗

吹屋の町並みに葺かれた赤褐色の瓦は、江戸時代後期に石見国江津村(現在の島根県江津市)から来住した瓦師によって焼成されました。瓦に適した良質な土と、燃料となる松材の産地を確保した瓦師は、弁柄生産などで財を成した吹屋の商家などから注文を受けると、その地に窯を築き、石見の伝統技術を駆使して赤褐色の釉薬瓦を焼成しました。この釉薬瓦で葺かれた屋根は、当地でのステータス(社会的地位)を意味したと考えられ、競うかのように赤褐色の瓦は普及し、美しい統一的な色彩の町並みが形成されました。主に塩田村(現在の高梁市宇治町塩田)周辺に窯が築かれたため、地元では「塩田瓦」と呼ばれています。この道具類は、地元の有志により収集・保存された貴重な民俗資料です。



高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎ 21-0257



赤褐色の瓦で葺かれた吹屋の町並み



石州瓦製作道具(一部)

健康づくり応援通信 ㊤



乳がん・子宮頸がん検診を受診しましょう

乳がんと子宮頸がんは早期発見・治療することで治る病気です。特に子宮頸がんは検診とワクチンで早期発見・予防が期待できます。乳がんは40歳になったら、子宮頸がんは20歳になったら毎年検診を受けて、早期発見に努めましょう。

今年度の集団検診の日程および医療機関での検診については、「令和4年度けんこうガイドブック」を参照し、ご自身に合った方法で受診してください。

乳がん

乳腺にできる、女性に一番多いがんです。40～50歳代をピークに発症や死亡が増加しており、日本人女性の約9人に1人が生涯で乳がんにかかる危険があります。早い初経年齢や遅い閉経年齢などが、乳がんを発症する危険を高める原因として知られています。

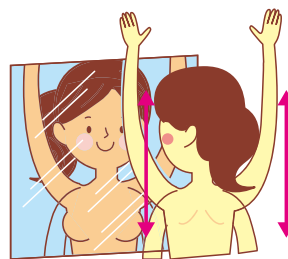
子宮頸がん

子宮の入り口にできるがんで、女性なら誰でもかかる可能性のある病気です。20～30歳代の女性では乳がんに次いで多く、近年は39歳以下の女性の発病や死亡が増えています。発症にはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関連しています。

毎月1回、乳がんのセルフチェック

※乳がんの60%は、セルフチェックで発見されています

視てチェック



腕を高く上げた状態と、手を腰に当てた状態で、ひきつれ、くぼみ、乳輪の変化、乳首のへこみ、湿疹などがなければ確認します。

触ってチェック



② 乳房や乳首をしぼるようにして、乳首から分泌物が出ないかをチェックします。

① 指を揃え、指と肋骨で乳房を挟むように触れ、「の」の字を描くように動かし、しこりや硬い部分がないかなどをチェックします。